

校内研修計画

《 主題に基づく研修 》

仲間とともに主体的に学び合う子どもの育成

協同的で探究的な学びを生み出す授業の創造

～真正の学びをめざして（2年次）～

四日市市立県小学校

令和6年4月3日（水）

1 研究主題

仲間とともに主体的に学び合う子どもの育成 協同的で探究的な学びを生み出す授業の創造 ～真正の学びをめざして（2年次）～

2 主題設定の理由

本校では、子ども自らが問いを持ち仲間とともに主体的に探究する姿を求め、これまでの教師主導の一斉授業から、ペアやグループを学びの単位とする授業観の転換を図る授業改革に挑んだ。聴き合う関係を基盤に、子どもが挑戦するジャンプの課題に取り組むことで、学ぶことを楽しみ、仲間とともに主体的に学ぶ姿が生まれるという仮説を立て、『協同的で探究的な学びを生み出す授業の創造 ～聴き合う関係を基盤にして（1年次）～』を研修テーマに取り組んだ。

【昨年度の成果】

聴き合う関係においては、「これって、どういうこと？」と、自分のわからないことや困っていることを伝える子どもの姿が見られた。そして、「〇〇さんの言いたかったことは、～」「〇〇さんの意見につながるんだけど、～」などと、相手が何を言おうとしているかをわかろうとする子どもの姿があった。友だちのわからなさにそと寄り添う子どもの姿から、聴き合う関係とは、相手をリスペクトすることであることを子どもから学んだ。

二学期からは、全校で机の配置をコの字型やグループに変え、ペアやグループを学びの単位とした。共同注視では、ペアやグループの中心に置くのは、筆箱でなく、教材であり、子どもたちのわからなさである。それらが、どのようにペアやグループの間で、共有され、教材とどうつながっているかを看取る力が求められた。

さらに、わからなさを出し合い、友だちのわからなさに寄り添おうとする聴き合う関係が、安心して本音を出し合えるなかまづくりにつながることが確かめられた。だからこそ、授業における聴き合う関係が、本当に友だちを大切にしようとしている姿であるのか、なかまづくり（人権教育）の視点から改めて、問い直す必要がある。

ジャンプの課題は、手探りであったが、条件を複雑にしたり、日常生活と結びつけたり、さらに他教科に広げたりして、それぞれの学年や学年部で考え、取り組んだ。ジャンプの課題は、挑戦的で創造的な学び、主体的に探究する姿を生み出した。また、共有の課題を足場に考えたり立ち戻ったりして探究する子どもの姿から、共有とジャンプの課題のつながりが大切であり、共有の課題がジャンプの課題の確かな足場になっているかを考える必要があると明らかになった。

このように、聴き合う関係を基盤に、ペアやグループを学びの単位とし、子どもの思考に委ね、ジャンプの課題に取り組んだ結果、子どもが探究する授業へと歩みを進めた一年であった。

【昨年度の課題】

一方で、学び合いではなく、わかっている子がわからない子に教える、教え合いになっているペアやグループもあった。また、ジャンプの課題になると、わからないことや困っていることを言えず、学びから取り残されている子どももいた。ジャンプの課題では、正解にたどり着くことができる子どもは3割と言われることもあるが、正解かどうかでなく、一人ひとりの子どもがどのように学びに向かおうとしていたか、その子にとっての学びがどうだったのかが問われるのであり、私たちは、だれ一人、学びから取り残されないよう、一人ひとりの学びを保障していく必要がある。

そのためには、子どもが自ら考え、共有し思考を深めるための ICT の効果的な活用も積極的に進めていく。
何より、子どもに委ねるからこそ、ペアやグループで行われている「子どもの学びを看取る力」, 「本質的なつまずきを授業の中心に据えるリデザイン力」, 「教科の本質に迫り学びを深める授業力」など、教師の力量が問われてくる。子どもが主体的に探究する学びを求め、より一層、私たちの授業力を磨いていきたい。

そこで、昨年度までの取り組みから見えてきた課題から、「教科の本質に迫る真正の学び」をキーワードに、今年度は、研修主題を『協同的で探究的な学びを生み出す授業の創造』, サブテーマを『真正の学びをめざして』と設定し、研修を進めていくこととした。

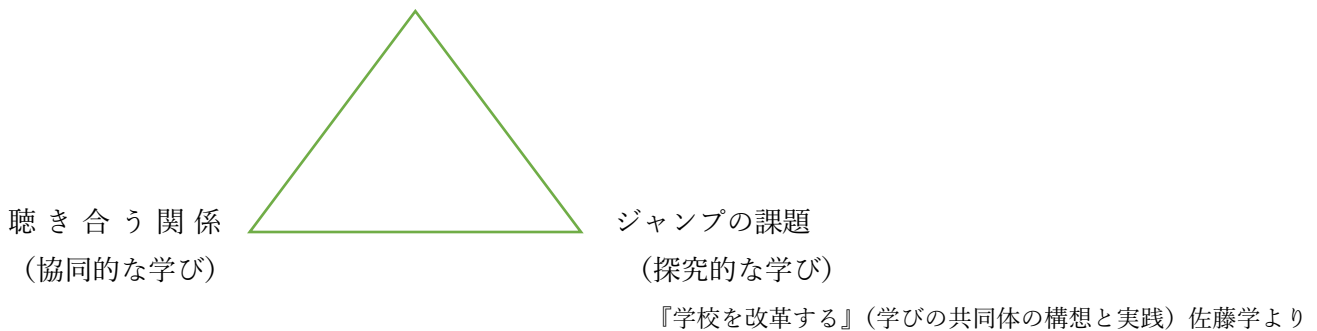
3 主題達成に向けての取り組み

授業改善の視点として、教師が教える授業から、子どもの学びを中心とした授業に転換するために、「学びが成立する要件」を以下のように捉え、授業改善のための5つの手立てに取り組む。

(1) 学びが成立する要件

真正の学び (authentic learning)

(教科の本質に即した学び)



(2) 授業改善のための5つの手立て

①聴き合う関係づくり

わからなさを自ら出し、友だちのわからなさに寄り添う聴き合う関係を進める。ペア・グループの中心には、筆箱でなくわからなさを置き、子どもと教材とのつながりをつくる。また、聴き合う関係をなかまづくりの視点から捉え直し、どの子も安心して学ぶことができる教室をめざす。

「学びのルール」と「ペア・グループ学習」に、引き続き、全クラスで取り組む。

◇ 学びのルール

- わからないことは、自分から聞く
- 聞かれたら、友だちがわかるまで答える。
- わかるまで聞く。
- こまっている友だちに、声をかける。

◇ ペア・グループ学習

②真正の学び

真正の学びとは、教科の本質にそった学びであり、その教科、単元でしか学ぶことができない学びを追求していく。教科でつける力を教師自身が明確に持つことや、子どもの中にどんな学びが行われているのか、子どもの学びの事実を看取る力が求められる。そのために、互いの授業を見合い、授業力や子どもの学びを看取る力を磨き合っていく。

「卓越性の哲学」について

授業と学びはいずれも、卓越性を追求することなしには、実りある成果を生み出すことはない。ここで言う卓越性は、他の人と比較して優れるという意味ではない。どんな条件にあっても、その条件に応じてベストを尽くすという卓越性である。授業の実践も学びの実践もたえず最高のものを追求しなければ、まっとうな授業や学びを実現させることはできない。子どもの能力が低いからと言って学びのレベルを下げたり、家庭環境が厳しいからと言って学びのレベルを下げたりしてはならない。教師の条件も同様である。自分の体調が悪いからとか多忙だからと言って、授業のレベルを下げてはならない。子どもにも同様のことを要求する必要がある。「教育とは習慣の形成である」というデューイの指摘は、卓越性の哲学によって支えられる必要がある。

『学校を改革する ～学びの共同体の構想と実践～ 佐藤学』より

「真正の学び」について

「真正の学び」とは教科の本質にそった学びであり、数学は数学らしい学び、歴史は歴史らしい学び、文学は文学らしい学び、音楽は音楽らしい学びを追求することを要請している。たとえば、文学の学びにおいては、テキストとの対応がもっとも重要なのであり、仲間との対話（話し合い）よりも、テキストとの対話（テキストへの戻し）が学びの中心として重視される必要がある。また、科学（理科）の学びにおいては（仮説—実験—検証）も重要であるが、科学的探究の本質は自然現象をモデルによって解明することであり、観察と実験にもとづくモデルの構成としての探究の過程が、学びに組織されなければならない。

『学校を改革する ～学びの共同体の構想と実践～ 佐藤学』より

③ジャンプの課題

個人が研究する教科のジャンプの課題に取り組む。共有の課題を足場とし、ジャンプの課題に挑戦したり、わからない時に共有の課題に立ち戻って考えたりできるよう、共有とジャンプのつながりを明確にしてジャンプの課題を作っていく。教科（単元）の本質を正確に捉え、それを課題作りにつなげていく。

④教師の役割

ペアやグループでの学びを看取り、本質的なつまずきを取り上げる。さらに、本質的なつまずきをリデザインする授業力をつけていく。

⑤ICTの活用

ICTを活用した共同注視の在り方を考える。

(2) 研修領域

① 教科

個人が研究したい教科、全領域で取り組む。

② 個人の研修テーマ

自分自身が課題と感じていることや今年度、重点的に取り組みたいこと、新たに挑戦したいことなど、個人の研修テーマを設けて取り組む。（4/12（金）までに）

(3) 授業研究方法

① 全体提案授業・・・助言者（指導主事，岡野昇教授（三重大学教育学部））要請

全教科 全体提案授業研

*低・中・高学年部の中から計2本

人権・同和全体提案授業研

*低・中・高学年部の中から計1本

たんぽぽ学級の情報交換

*1学期に公開週間を設定し，その後，児童の様子などについて情報交換

指導主事に報告すること

*実施2週間前までに（桂山まで）

①実施日 ②日程等 ③授業者 ④単元名や内容等 ⑤各校の研修計画（1回目のみ）をメールで報告

*実施3日前（午後5時）までに（桂山まで）

①指導案や資料をメールまたは逡送で指導課に送付。（土日祝を除く3日前まで）

(Files V → R6 年度 → 研修部 → R6 度研修収録 → 全体研学習指導案に保存)

R6年度	1年	2年	3年	4年	5年	6年	専科
①全教科（全体研2本）							
②人権（全体研1本）	（専科・たんぽぽ含む）						
③人権フェスタ（1学年）	（専科・たんぽぽ含む）						
④学年部研（2本）全教科	（全教科の全体研と人権フェスタをしない学年）						

R5年度	1年	2年	3年	4年	5年	6年	専科
①算数科（全体研2本）	○	/	/	/	/	○	/
②人権（全体研1本）	3年（専科・たんぽぽ含む）						
③人権フェスタ（1学年）	2年（専科・たんぽぽ含む）						
④学年部研（2本）算数科	4年 5年（算数科の全体研と人権フェスタをしない学年）						

② 学年部提案授業・・・学年部が参加する。

- ・人権・同和教育の提案授業，人権フェスタの発表学年以外は，自分に取り組む教科の授業を提案する。
- ・人権・同和教育の観点からの提案授業は，全学年から1名が提案する。

デザインシートは，2日前までに全員に配付する。（25部作成）

- ・原則として，提案授業を行った日の放課後に，学年部での事後研修会を行う。
- ・提案授業の事後研の内容を「○年○組学年部研修報告」として，全職員にメール配信する。

(Files V → R6 年度 → 研修部 → R6 度研修収録 → 学年部研修報告に保存)

③ 授業公開週間

- ・ 6月10日（月）～14日（金）、9月17日（月）～20日（金）授業提案，参観を行う。
- ・ 各自が研修テーマを持って授業提案を行う。自分が研究する教科を提案する。
- ・ 実施日，教室，授業内容を入れた計画表を作成し，全員に配付する。
- ・ 各自で意見，感想などを交流する。

④ 学びの一体化提案授業

- ・ 昨年度は三重小学校，今年度は三重北小学校が担当校。
- ・ 授業公開週間（6月10日（月）～21日（金），二学期未定）

⑤ 学年・学年部研修

- ・ 学年研修で，ジャンプの課題作りや日々の授業の振り返りなどを行う。

⑥ ミニ研修

- ・ 教科のミニ研修会やタブレット研修など，主体的に取り入れていく。

(4) 地域人権（人権フェスタ）実践報告について

- ・ 学校1本の取り組みを発表する。
- ・ 前年度の発表学年以外とする。

（R5年度2年 R4年度4年（発表はコロナのため中止），R3年度5年，R2年度3年，R元年度：1年）

- ・ たんぽぽ学級児童が所属する学年は，たんぽぽ学級の実践を含めてもよい。
- ・ 人権フェスタ発表学年は全体研・学年部研なし

(5) 実技研修会

- ・ 夏季休業等を利用し，ICT研修や体育実技，特別支援教育など，本校職員のニーズに応じたミニ研修を行う。

4 研修体制及び研修組織



5 その他

- (1) 全体授業研修会 (日程調整 桂山まで)
 - 提案者決定 4月10日(水) 放課後
 - 日程調整 4月12日(金) (前期分4月17日(水) 締め切り)
(後期分7月18日(木) 締め切り)

- (2) 夏季研修会 (8月1日(木) 2日(金) について)
 - ① 主題に基づく研修
 - ② なかまづくり研修
 - ③ ミニ研修会 (タブレット研修 など その他希望の研修)
 - ④ 8月2日(金) 学びの一体化全体研

- (3) 校外公開授業研究会の参加について

可能な限り，参加し研修を深める。県外のオンライン研修などにも積極的に参加する。

6 年間研修計画

月	主題に関する研修	人権・同和教育研修	学びの一体化研修	その他の研修
4	研修推進計画の立案・検討 研修委員会2日(火)① 研修委員会9日(火)② 研修計画の提案3日(水) 全体研修会19日(金)岡野教授	人権教育推進計画の立案・検討 年間指導計画の作成 研修計画の提案3日(水)	推進委員会16日(火)	
5	研修委員会9日(木)③	なかまづくり研修10日(金)		たんぼぼ学級公開・情報交換会
6	研修委員会6日(木)④ 授業公開週間10日(月)～14日(金) 授業研究(全体提案)26日(水)岡野教授	なかまづくり研修(全体研) 10日(月) (予14日, 5月31日)	推進委員会7日(金) 学びの一体化授業公開週間10日(月)～21日(金)	
7	1学期の振り返りとまとめ 研修委員会2日(火)⑤ 朝チャレ週間8日(月)～12日(金)			
8	2学期以降の研修の方向性 夏季全体研修会(主研修) 1日(木)2日(金) 夏季ミニ研修会28日(水)	2学期以降の研修の方向性 夏季なかまづくり全体研修会 2日(金) 夏季人権・同和教育研修会 四同研大会18日(日)	第1回全体研修会・ 中学校区人権講演会2日(金)	
9	研修委員会10日(火)⑥ 授業公開週間 17日(火)～20日(金)		推進委員会17日(火)	
10	研修委員会8日(火)⑦ 授業研究(全体提案) 4日(金)岡野教授	三同教大会19日～20日	学びの一体化授業公開週間21日～26日	
11	研修委員会5日(火)⑧ 授業提案(全校提案) 22日(金)岡野教授	北勢同和15日(金) 全同教大会31日～1日	第2回全体研修会29日(金)	
12	研修委員会3日(火)⑨ 2学期の振り返りとまとめ 朝チャレ週間9日(月)～13日(金)			
1	研修委員会10日(金)⑩ 朝チャレ週間27日(月)～31日(金)	四同研課題別学習会19日 なかまづくり研修27日(月)	人権フォーラム	
2	研修委員会4日(水)⑪		推進委員会20日(木) 人権フェスタ	
3	研修の総括(次年度の方向性) 5日(水)			

